

森林保全「海潮音の森」

本社と日本海ケーブルネットワーク
鳥取県、鳥取市と協定

は2028年1月16日まで
の5年間。

保全活動の対象面積は0・72畝。同社などが運営する鳥取マラソンのスタート地点周辺で、社員や家族らが年2回ほどマツ枯れ跡地のクロマツ植栽、つる切り、除伐などを実施する。愛称は本紙1面のコラム名にちなみ「海潮音の森」に決まった。現地には書道家の柴山抱海氏が揮毫した看板を設置する。

県庁であった調印式で平井伸治知事は「地元紙として地域貢献の伝統を引き継いでおられることに感謝。森林保全のシンボリックな森になってほしい」と期待。吉岡徹社長は「マラソンランナーを温かく迎える、おもてなしのゲートウエーにしたい」と意気込んだ。同制度は06年から始まり、協定の締結は両社で21、22社目。初回活動は、オンラインで実施される鳥取マラソンの開催日に合わせ、3月12日にクロマツ植栽を行う予定。(松本妙子)

今年発刊140周年の新日本海新聞社(鳥取市、吉岡徹社長)と開局30周年の日本海ケーブルネットワーク(同)は17日、鳥取県、鳥取市と「とっとり共生の森」森林保全・管理協定を結んだ。鳥取砂丘オアシス広場近くにある同市福部町湯山の松林が対象で、期間



保全林に設置する看板を披露する吉岡社長(中央)ら＝17日、鳥取県庁

「海潮音」とは鳥取県唯一の地方紙 日本海新聞の1面に毎日掲載されるコラムの名称です。昔の大きな慈恵の音声があまねく聞こえることを波の音にたとえた仮称でもあります。

新日本海新聞社
NHN 日本海ケーブルネットワーク